



学校だより

12月号

横浜市立六つ川台小学校
令和3年11月30日

URL:<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawadai/>
E-mail: ky-e-mutsukawadai@city.yokohama.jp

本番を経験することで

教務主任・児童支援専任 高味 裕二

新型コロナウイルスまん延が収まりつつあるこの頃、本校では校外学習が盛んに行われています。これまで様々な制限下で生活してきたこともあり、心待ちにしていた子も多かったことでしょう。

先月は3年生の県警・スカイガーデン見学、6年生の日光修学旅行、個別支援学級の関内校外学習、1・2年生の合同遠足、4年生の鎌倉彫体験・自然観察の森ネイチャーウォークを実施しました。ここでは、私が日光修学旅行の引率を通して改めて感じたことをお伝えしたいと思います。

1つ目は、「本物を感じる」ことの貴重さです。宿のご主人の話や益子焼職人の方の説明を聞く6年生の態度は大変素晴らしかったです。現場の緊張感に集中が高まり、適切な態度や言葉遣いで臨む姿に、6年生の成長を確かめました。

2つ目は、「本番に生かす」ことの大切さです。東照宮では、事前学習で調べた内容を確認しながら見学する子を見ました。歴史学習の深まりにつながったことでしょう。行きのバスの中では、相手の回答に応じて相槌を打ったり、話題を膨らませたりしながらクイズを進行する係の子に感心しました。国語の学習や学級での話し合い活動で身に付けた知識が生かされていました。教室ではなかなか気付けなかった一面にたくさん出会えて、こちらも嬉しい気持ちになりました。

最後は、「みんなでやり遂げる」ことに大きな価値があるということです。学んだことを生かし、心豊かに、伝え合い、認め合い、励まし合い、笑い合い…。現在の社会情勢ではなかなか難しいことだからこそ、学校の「強み」について考えさせられました。

六つ川中学校ブロックの協議会では、コロナ禍においても児童生徒が活躍できる場を保障し、自己有用感を高められるような支援の工夫について意見が交わされました。場合によっては限られた中での活動になるかも知れませんが、子ども達が本番を経験することで、自分自身の力を伸ばしたり、学級や学年の集団としての力を高めたりすることができるよう、今後も行事運営に努めてまいります。

12月には、5年生の足柄体験学習や4年生のキャンプファイヤーも予定されています。また、今年度の学習発表会は2年ぶりに保護者の方をお招きして発表を行う予定です。子ども達が生き生きと取り組む様子を見守っていただき、励ましの声をかけてくださると幸いです。

2021年も大変お世話になりました。よいお年をお迎えください。